

アジアペタンク選手権大会に出場して

岡山県ペタンク連盟 木下 幸喜



ぼくは、アジア選手権に参加するのは初めてだったので、どのくらいのレベルの大会なのかが全く分かりませんでした。なので、強いチームが来ているのかなとドキドキしながら出場しました。

大会前日練習に行くと、いつもと同じ砂利のテランだったので、とてもやりやすく、安心しました。シューティングも練習で16点、23点、26点とだんだん調子が上がって行って、次の日の試合が楽しみになりました。

大会一日目は、開会式の後、前日に練習試合をしたシンガポールと対戦して、練習では勝てたのに、試合では負けてしまいました。午後からのシューティングでは17点を取って四位で通過できましたが、二次予選では9点で決勝には残れませんでした。

二日目はカンボジア、ベトナムと、三日目は台湾と対戦しました。力不足で負けました。最後にもっと守りの球を固めると点を取られにくくなると思いました。もっと練習してまた対戦したいです。

閉会式後のパーティーでは、とても楽しみにしていたユニホーム交換を、カンボジア選手とできたことがうれしかったです。良い思い出になりました。

アジア選手権に行って思ったことは、ティールの確率を上げてカローをたくさん出すことや、ポワンテの守りがとても重要だということです。なので、このことを大切に行けば勝てるようになると思いました。

アジアペタンク選手権大会に出場して

木下 知（保護者）

この度は多くの方から暖かいご支援をいただき、本当にありがとうございました。お陰様で無事大会に参加して参りました。

日本を発つ前には、まだ小学5年生ということで、体調面も精神面も心配が尽きなかったのですが、大会ではチームメイトとのびのび楽しそうにプレーする姿が見られ、安心いたしました。勝ち星を上げられなかったのは残念ですが、本人なりに今後の課題が見えてきたようです。

また、シューティングでは、とても貴重な体験をさせていただきました。地元の観客の方も身振り手振りで声を掛けて応援してくださり、感激いたしました。

大会が終わった後の、プノンペン市内観光では、これまであまり知らなかったカンボジアの歴史に触れ、子供の心にも強く感じるものがあったようです。日本で平和にペタンクができるありがたさを分かってくれたのではないかと思います。

日本代表という誇りと榮譽をもって挑戦

岡山県ペタンク連盟 佐野 裕二



2年越しの目標が実現しました。今まで、いつも共に練習しているソレイユクラブの仲間と日本代表になるという目標に向けて練習に励んできました。そして、2年前に厳しい選考会を勝ち抜き、世界選手権大会の代表権を獲得しました。しかし、突然大会が中止になり、非常に悔しい思いをしました。そこで、もう一度奮起してアジア選手権大会の日本代表選考会に臨み、厳しい戦いを征して代表権を獲得しました。そして、第19回アジアペタンク選手権大会に日本代表として、誇りと榮譽をもって初めて出場しました。大会までには合宿や強化練習を何度も繰り返し、個の技術を高めるとともにメンタルトレーニングも取り入れチームの一体感を最大限に高めて大会に臨みました。

アジア選手権大会の1次予選では、モンゴルとインドネシアに勝利し通過することができました。私たちにとっては歴史的勝利です。2次予選では世界的に強豪のタイの2チームと対戦し技術の差で敗戦し、決勝トーナメントには進むことはできませんでした。また、ネイションズでもベトナムに敗戦して9位タイとなりました。アジアの壁は、厚く厳しいものでした。しかし、今まで練習してきたことを出し切ることはできた確信はあります。



そして、今回のアジアペタンク選手権大会で、いくつかの成果を上げることができました。

- ① ソレイユJr. の木下幸喜君が、シューティングの予選で17点を出し、第4位になったこと。
- ② チームソレイユの難波さんが、シューティングの予選で29点をだし、第4位となり予選を通過したこと。
- ③ チームソレイユが、1次予選でモンゴルとインドネシアに勝利して、1次予選を通過したこと。
- ④ 男子世界ペタンク選手権大会の出場権を確保したこと。

これらの成果は、貴重な経験として私たちの心に留めておきたいと思います。

アジアペタンク選手権大会に初めて出場して、世界とのレベルの差は大きいことが分かり、これからの課題が明確になりました。まずは、ポワンテ、ティールの精度を上げることです。ポワンテは、どんなテランでも戦略的なポイントにボールを寄せる技術を磨くことです。また、ティールは、当てるだけでなくカローの確率を上げることです。カローを狙ってティールする技術を磨くことです。これからは、それらの練習に取り組みたいと思います。

また、アジア選手権大会に出場して感じたことは、若い選手が多いことです。ほとんどの選手は、10代～20代の選手です。私は男子の最高齢だったのでしょうか？とにかく、若い選手ばかりでした。日本以外の国は、確実に若い選手を養成しています。それは、その国のペタンクの未来のためです。そのことについては、日本は取り組みが未熟です。あまりにも取り組みができていません。このままでは、日本のペタンクの未来はありません。それは、10月に世界ジュニアペタンク選手権大会にコーチとして、出場して感じたことでもあります。我々世界を経験した者は、ジュニアから若い世代の選手の育成を日本ペタンク・ブール連盟と共に強力に取り組む必要があります。今後は、今まで以上にジュニアと大学生などの若い選手の育成に力を入れようと考えています。

今年の世界ペタンク選手権大会が、マレーシアで開催される予定です。もう一度、日本代表をめざしてクラブの仲間と代表選考会に挑戦します。これが私にとって、最後の挑戦です。来年をもって選手としての挑戦は終わります。ぜひ、世界選手権大会の出場を果たし、貴重な経験を積みたいと思います。その後は、今までの経験と更なる指導力を習得した上、ジュニアと若い選手の育成に尽力したいと思います。それが、私の使命と考えています。

私は、ペタンクのおかげで、かけがえのない経験と豊かな人生を送らせてもらっています。そんな人生を与えてくれた“ペタンク”への感謝を込めた恩返しです。

私は、新たな取り組みにチャレンジします！！

最後に、アジアペタンク選手権大会の出場に際して、多大なるご支援をいただきました日本ペタンク・ブール連盟、総社市、総社市ペタンク協会、岡山県ペタンク連盟、ソレイユJr.、ソレイユクラブなどすべての皆様に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

第19回アジアペタンク選手権大会 参加報告

岡山県ペタンク連盟 難波 利彦



私は、2015年12月17日～20日に、カンボジアで開催された第19回アジアペタンク選手権大会に出場させていただきました。私がこの大会を通して感じたことを皆さんにご報告させていただきます。

1 ホテル、食事

ホテルは会場から車で5分程度の場所で、きれいな部屋が用意されていました。大会期間中快適な空間が確保され、満足できました。また、食事は、バイキング式で、3食すべてホテルで摂ることができました。パクチなど、香草がよく効いており、慣れるまで少し時間がかかりました。この地域では、水や生ものには特に注意が必要ですので、しっかり火の通ったものを摂るようにしました。胃腸が弱くなくても、ミネ

ラルウォーターや食事が体に合わず、おなかを壊すこともあります。選手がパフォーマンスを十分発揮するためには、日本食、補助食品、胃腸薬などを日本から持参するなど工夫して、体調管理には十分気をつけなければならないと感じました。

2 トリプルス

今回トリプルスで最も印象に残ったのは、タイ①との対戦です。こちらの1投目が寄ったとしても、次々とティールされ、カローの数だけ得点されました。このような展開はある程度、覚悟してはいましたが……。ミリューやポワントゥールも、いとも簡単にティールを決めて、涼しい顔をしていました。こちらは、ティールが成功してもカローにならないのです……。

国際大会で勝負するには、①ティール主体のゲーム運びをすること。（ティールはほぼ100%当て、そのうちどれくらいカローにするか。）②ポワンテはただ寄せるだけではなく、どこにボールを置くか（相手ボールやビュットの近くなど）を考えること。（そのためには、良い回転のボールをピンポイントに落とす技術が必要です。）の2点が重要であると実感しました。

3 シューティング

日本チームからは、私（難波）が参加させていただきました。1次予選は29点で、4位となり準々決勝に進出しましたが、8名による決勝トーナメントでは初戦で27-38で負けてしまいました。

今回は、標的サークルがベニヤ板で作られていたため、手前から拾うような投球ではボールが大きく跳ねて当たりませんし、カローもほぼなし。最後のビュットでは3cm手前にボールの跡がついていてもかすりもしませんでした。1次予選の上位3名の得点も43



点、38点、35点と、過去の大会と比べてもかなり低い得点でした。年々参加選手のレベルが上がってきているので、難易度を上げているのかもしれませんが。

また、予選では20球続けて投げますが、決勝ラウンドでは、対戦方式になるので、相手との駆け引きなど精神面でのプレッシャーとも戦わなければなりません。いずれにしても、両方式に慣れるようしっかり練習することと、どんな場面でも自分の実力が発揮できるよう、メンタルを鍛えることが最も大切だと感じました。

4 大会運営

大会期間中、タイムテーブルが予定どおり進行しません。当初はシューティングの1次予選が先で、トリプルスが後だったのですが、急にトリプルスが先になりました。内容が変更になる度に、本部の掲示板を確認してもらったり、役員に聞いてもらったりしなければなりません。選手は試合に臨むに当たり、ウォーミングアップの開始時刻や、食事時間、精神的な部分も含め、準備に専念したいものです。大会運営

について、ある程度の知識があり、言葉も理解できるスタッフが必要不可欠と感じました。

5 まとめ

私にとって今回が初めての海外遠征でした。自分なりに、今まで取組んできた練習の成果が、メンタル面を含めてある程度発揮できたのではないかと考えています。ただ、アジアや世界のトップとの実力差はとて大きく、もっともっと投球の精度を上げていかなければならないと痛感しました。

今回の経験を通して感じたことを日本の皆さんにしっかりお伝えし、日本全体のレベルアップに役立てられればと思っていますので、大会会場等でお会いした際には遠慮なく声をおかけください。

最後に、陰で支えていただいた日本連盟の方々、ご同行いただいた日本チームのスタッフ、選手、保護者の皆さん、遠く日本から応援いただきましたペタンカーの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました！

アジアペタンク選手権大会に参加して



岡山県ペタンク連盟 徳田 真行

第19回アジアペタンク選手権大会に参加しました。私はポワントゥールでの出場でしたので、ポワントゥールとしての大会内容の他に、大会までの練習や、滞在中の注意点、感じたことを皆様にご報告したいと思います。

・大会までの準備・練習

アジア選手権の出場が決まり例年よりも試合の出場回数を増やしました。日々の練習も大切ですが試合でしか会得できないことがたくさんあり、勝負勘や流れを維持し続けるためです。

日々の練習では、砂利の地面でポワンテとティールのアトリエ（例：ビュットの前30cmに障害球を置き、当たらないように寄せるなど）を投げた後、練習試合を2試合程度、時間があればシューティングの練習を行いました。シューティングの練習を取り入れたことでとてもよい集中力を得ることができました。

ティール練習ばかりになることが多いと思いますが、ポワンテの練習も同じ時間をかけていました。・ポワントゥールとしての大会内容今大会のテランは会場が屋根付きであり、地面が乾いていて非常に硬く、その上に小さな砂利が少し撒いてある程度でした。普通に投げれば簡単に寄せられるようでした

・ポワントゥールとしての大会内容今大会のテランは会場が屋根付きであり、地面が乾いていて非常に硬く、その上に小さな砂利が少し撒いてある程度でした。普通に投げれば簡単に寄せられるようでしたが、高く上げると傾斜や、ドネによって思わぬ方向へ行ってしまうこともありました。日本にはないようなテランでした。よって試合

では少し低めのドゥミポルテで寄せることにしました。他国も高いポルテはしておらず、しっかり回転のきいたドゥミポルテで投球していました。

・滞在中に感じたこと

食事と飲み水に気を付けることです。衛生状態にもよりますが、水が合わないなどでお腹を壊すこともあります。私は何回か海外に行ってお腹を壊したことがなかったので日本から食料をほとんど持ってきていきましたが、胃腸に不安がある場合は日本食を持って行って「現地の物は食べない」と徹底しておいた方がよいと思います。お腹を壊しては試合で最高のパフォーマンスが出せませんし、自分が食べられるものだけ食べるのでは栄養のバランスが偏ってしまいます。

・これからの課題

これから日本人ポワントゥールが活躍するためには、しっかりした回転のボールが自分の思った場所に落とせること。地面に応じて投げ方を変えるバリエーションを持っていること。当然のことですがこれに尽きると思います。

強豪国相手にはどんな良い場所に寄せてもティールされてしまいますが、すべてが当たるわけではないですし、カローになるわけではありません。相手がティールを外す少ないチャンスに付け込んでいかななくてはならないということは、最初の1球目を戦略球となる配置で、寄せ続けることができればどんなティールであれプレーヤーになり精度が落ちます。ポワントゥールにとっては難しいことですが、しかしこれができなければ強豪国には勝つことは出来ないと思います。

最後にアジア選手権大会に出場するにあたりたくさんの方のご支援ご声援をいただきまして、ありがとうございました。



アジアパタンク選手権大会報告

岡山県パタンク連盟 富谷 弘樹



2015年アジアパタンク選手権について報告させていただきます。

12月15日に日本を出発しカンボジアへ行きました。

「チームソレイユ」で国際大会に出場することができ、とてもうれしく思っています。

私は、1次予選2回戦モンゴル戦と2次予選2回戦タイランド2の試合に出場しました。

初戦のモンゴル戦では、チームの調子が良く練習どおりのプレーができ13対0で勝利することができました。日本の初勝利に貢献でき、とてもうれしかったです。

2次ラウンドのタイランド戦では、ポワンテは確実に寄せ、ティールは確実に当てカローにするという精度に圧巻されてしまい、自分のティールのミスからチームの成

功率が下がりあつという間に敗戦してしまいました。どんな状況下にも練習どおりのプレーが出来る強いメンタルが必要なところを試合で痛感しました。

今回参加したことで、他国の選手の素晴らしいプレーが見れたこと、国際大会でプレーしたことは自分にとってとてもプラスになったと思います。

これかからも仲間とともに目標に向かって頑張っていきたいと思っています。このような機会を与えていただいたことに感謝し、自分自身も向上していけたらと思います。どうも、ありがとうございました。



◆第 19 回アジアペタンク選手権大会 日本選手団



■女子選手団報告■

■アジアペタンク選手権に参加して

平野 勝子（愛知県）

プノンペン空港に降り立ち、カンボジアの空気を感じながらホテルへ。バスの中から見る街並みは、テレビで見ていた通りのバイク王国でした。

翌日会場へ。“屋根付きのペタンク専用コート 24”には本当にびっくり、でもこの素晴らしいコートでペタンクが出来る喜びを感じました。

さて、試合です。抽選運に恵まれた事もあって、頑張っ、頑張っ何とか“二勝”でき、ネイションズの三位という形のあるものを頂き、有難い気持ちでいっぱいです。

決勝戦を見て感じたこと

- ・選手が若い
- ・ポワントは上手
- ・ティールは確率が高く残る

結果“タイ”が三部門 ジュニア・男性・女性
とも優勝です。

そして、両サイドでの観客席では自国の応援に声を張り上げているのも楽しんでる様でよかったです。

夢のようなアジア大会、不安いっぱい、楽しみいっぱいの出場参加でしたが、水の心配もなく、ホテルも良く、関係者の皆様、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

■第19回アジアペタンク選手権大会に参加して 古野 信子（愛知県）

私達は普段練習もままならないにわか作りのチームであったが、思いがけずアジア大会の切符を手にすることができた。私は二度目の参加で海外経験はあるが、他の3人はホテルでの生活や食べ物など非常に不安な気持ちを抱えての参加であった。

大会では、選手の中で私が最高齢。多くの人から年齢を聞かれ、答えると驚きの声や拍手を浴びた。他の選手は私の孫のような若者だからだ。

大会最初のシューティングは、自分にはもうこのような機会は最後と思い挑戦することにした。練習してきた投法が最後まで定まらず、当日まで試行を試みたが、大会ではやはり普段の点数には届かなかた。言い訳になるが、今回は厚いベニア板上にボールやビュットが置いてあり、円内の好位置に落ちて「ゴン」と弾んでしまう。

外国チームは、ダイレクトティールが普通。しかもカロの確立が高い。試合では複数球カロにしなければ上位には勝ち上がれないことを痛感した。

次はトリプルス大会だが、予選では強豪（タイやベトナム）のいないグループとなり、何とか2勝2敗で終わることができた。しかしカンボジアに対戦負けしており、ネーションズへ。その1回戦は運よく不戦勝だったが、2回戦のベトナムにはファニー負け。だが、ベスト4入りでき、壇上でメダルを首にかけていただいたことはよい思い出となった。

技術的には未熟なチームであったが、試合ではがっちりまとまり、よくぞここまでやれたと仲間から感謝している。

ところで、海外では競技ペタンクを目指す若者が多い。しかし世界各国で障害者を含め高齢者の多くが趣味に健康維持にとペタンクを楽しんでいるのも事実である。その人達に応えるためにも、「国際交流ベテラン大会」というような大会も是非加えて欲しいと願う。

さて日本でも競技ペタンクを目指す者も多くなり、技術レベルの高い選手も多くみられるようになった。しかし海外に出てみるとレベルの差に驚く。そこで技術の差を縮めるために今後日本が取り組みたいことを考えてみた。

- * 選考会の実施日を年度当初に告知し、チーム募集でなく、個人のポアンテやティールの点数結果を基準にする。代表が決定したら1週間程度の強化合宿を行う。
 - * 現在行われているブロック別ベテラン大会の実施方法の検討(日本選手権方式など)
 - * 各地域で選手強化練習会(ジュニアも含む)を実施する。(本部助成金があるとよい。)
 - * 県や市町村に専用ペタンク場(砂利テラン)造りを願い出る。
 - * オリンピック加盟と同時にパラリンピックにも加盟申請する。
- 最後になりましたが、熊谷監督、清水様には大変お世話になりました。またジュニア付添の方々や男子チームの皆様、応援ありがとうございました。

■第19回アジアペタンク選手権大会に参加して 原 克子(愛知県)

2015年12月に、カンボジア・プノンペンで開催された第19回アジアペタンク選手権に、愛知県のチームで参加する機会を得てレベルの高い選手と対戦・交流が出来て貴重な経験をする事が出来ました。

日本女子チームは、インドネシア・シンガポール・台湾・カンボジアと同じグループでした。

初戦インドネシアには、最初リードしていたものの、中盤追いつかれ、そのままリードされ悔しい負け方でした。シンガポール・台湾は特に若い選手が多く、チャンスを逃さず戦う事が出来て、貴重な勝利を手にすることが出来ました。

カンボジア戦は、圧倒的なティールで完敗でした。とにかくティールの確実さには驚くばかりで、思い描くペタンクをするのには、確実な技術が必須だと痛感しました。

ネイションズで対戦したベトナムも、ティールは確実で、必死の思いで寄せたボールも簡単に処理され、しかもカラーで残り、得点になるというものでした。

アジアの選手・コーチの中には、相手チームのミスをあからさまに喜び、普段日本で通っているマナーとの違いに戸惑いも感じましたが試合後の交流では、10代20代の可愛らしい笑顔を見せてくれました。

同行してサポートして下さいました、熊谷さん・小成さん・ジュニアの保護者の皆さまのおかげで、慣れない所での試合もスムーズに進めることが出来て、本当にありがとうございました。感謝しています。ありがとうございました。

■アジアペタンク選手権 中田 信子(愛知県)

アジア選手権大会は、不安もあり緊張しましたが、私にとっては特別な大会でした。カンボジアの気候は33度でしたが、蒸し暑くない為たいへん過ごしやすかったです。

試合会場は屋内施設であり、テランは細かい砂利敷きで深くはありませんでした。砂利に対応出来るよう高く投球、又は低く投球と工夫しましたが、余計な力が入り思うようにいきませんでした。

他国の選手の若さや安定した投球フォーム、手首の柔軟性、強い気持ちなどを見て大変驚きました。正確度や技術レベルがとても高かったです。他国の投げる時のぶれないプレーを参考に帰国したら練習に活かしていきたいと思いました。今の練習よりも更に向上心を持って技術を磨かなければ、と感じました。良い経験をさせて頂き感謝しております。

熊谷監督、清水様、大変お世話になり有難うございました。